学校番号	403

平成 31 年度　国語科

教科	国語科	科目	現代文Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「精選現代文Ｂ　新訂版」（大修館書店）						
副教材等	最新国語便覧（浜島書店）　　シグマベスト大学入試頻出漢字 2500（文英堂） 新版二訂　実力アップ現代文３（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・自分で問題をたくさん解き、読解力の向上に励んでください。
・文章記述や話し合い等のアクティブな活動を取り入れた授業展開にします。
・様々な文章の「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身につけてください。
・授業の後には必ず復習をしてください。
・提出物の期限は守りましょう。
・定期考査前に焦って勉強するのではなく、日々の学習を大切にしましょう。

2　学習の到達目標

・目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に思いや考えを表現することができる。
・近代以降の様々な文章を的確に理解することができる。
・適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。
・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
・小説や評論などの多様な文章を読むことによって、作者、登場人物の心情を理解することができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期中間	評論(一)	論理性を身につける 教材: 「『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ」 「こころは見える？」	○		○	◎	a:本文が語る内容を積極的に理解しようとする c:要約に取り組む。論理的な文章を読み取ろうとする d:論理的な文章で使われる言葉を理解し使えるようする	a:行動の観察 c:記述の点検 d:定期考査
一学期期末	小説(一)	小説を通して自分の考えを表現できる 教材: 「赤い繭」	○	◎	○	○	a:本文の世界を積極的に理解しようとする bc:グループ学習で友人の考えをよく聞き、自分の考えをまとめる d:本文の世界の背景を知ろうとする	a:行動の観察 b:発表 d:発表・定期考査
二学期中間	評論(二)	昔の言葉(伝統的な言葉)と現代の言葉との違いや変化を読みとる 教材: 「人を指す言葉」 「猫は後悔するか」	○		○	◎	a: 本文が語る内容を積極的に理解しようとする c:要約に取り組む、小論文を書く。論理的な文章を読み取ろうとする。 d：現代社会の問題を理解する	a:行動の観察 c:記述の点検。定期考査。 d:定期考査
二学期期末	小説(二)	小説を通して背景を知る 教材: 「檸檬」	○	◎	○	○	a:本文の世界を積極的に理解しようとする b:グループ学習で友人の考えをよく聞き、自分の考えをまとめる c：発表の内容を文章にまとめる d:小説の技法(比喩や伏線)を理解する	a:行動の観察 b:発表 d: 定期考査
三学期	短歌俳句	短詩型の作品を読み味わう 教材: 教科書中に掲載された 短歌と俳句	○		○	◎	a:短歌俳句の世界を積極的に理解しようとする c:自分で句作する d:修辞法を知る、日本固有の表現を理解する	a:行動の観察 b:句作 c:記述の点検。定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現

c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。